

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

河野 清 氏 光市医師会 9月13日 享年 84

柴田 大明 氏 山口市医師会 9月19日 享年 42

編集後記

固い話で恐縮ですが・・・ちょうど理事会や勤務医部会で若手医師確保の話が議論されていたので、思うところを書いてみることにしました。

山口県の医師数は人口10万対では全国23位と中位ですが、より実態に近い、医師の年齢構成や患者の受療率を基に計算する「医師偏在指標」で見ると全国31位と下位に近くなります。その一因としては、医師の平均年齢が全国一高いということがあり、山口県では若手医師をいかに残していくのかということが差し迫った課題です。

その中で、「県内出身者」という言葉をよく耳にします。

厚労省の調査で「地元に残る医師の多くは、地元「ゆかり」のある人」という実態が明らかになったことから、若手医師確保のためには「県内出身者」を重視することが有効だといわれているためです。

その一環として、令和4年度は山口大学定員107名（学士編入10名を除く）のうち、「いわゆる県内出身者に限る」という地域枠が40名分もありますが、こうした地域枠も、令和6年度以降に向けて国の方で、あり方を検討されており、今後の動向が注目されるところです。

一方で、山口県に若い医師が残らない理由として、山口県には大きな商業施設や娯楽がない、などいろんなことが言われておりますが、本質ではないように思います。

県も、全国各県と情報交換をしており、それぞれの県で効果があったといわれれば、すぐに採り入れるなどそれなりの努力はしているようですが、要するに「これだ!」という決め手になるようなものはないようです。

ただ、初期臨床研修医の県内採用数は、多くの医療機関の努力のおかげで一番少なかった57から99（令和3年）と大きく伸びています。後は、初期臨床研修後の県内定着が60%前後となっている状況を何とかしないとイケないのではないかと考えています。

今後、そうした問題意識を持って大学や関連病院が知恵を絞っていくことで、間違いなく改善していくものと確信しています。また、「県“外”出身者」の私としては、山口県は住みやすいところだと、もっと発信をしていく必要があるのかな～とも思っています。

個人的な感想のようになり恐縮ですが・・・これからも県医師会の先生方の知恵をいただきながら若手医師確保に尽力していきたいと思っています。

（理事 岡 紳爾）